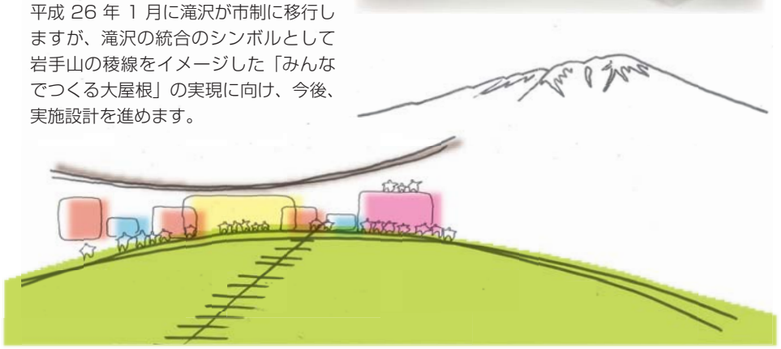
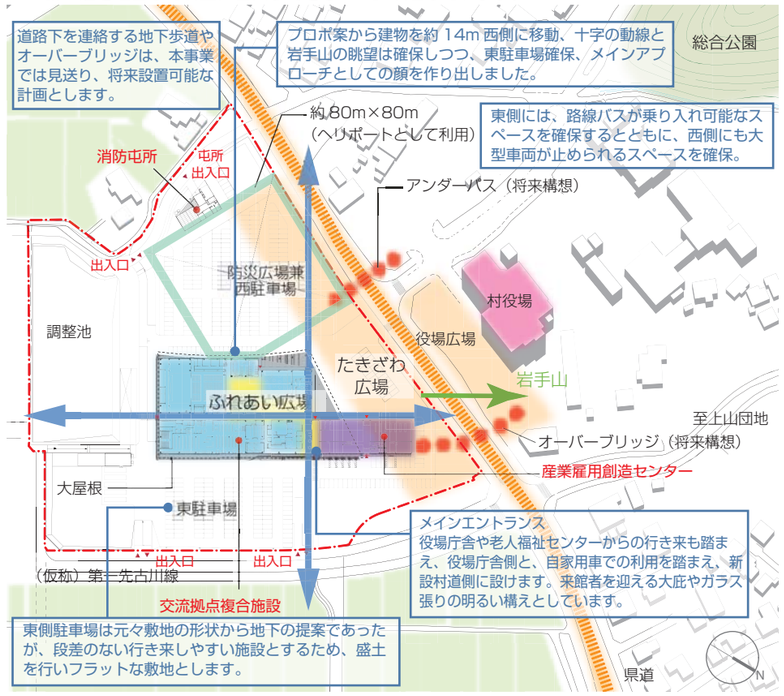
みんなでつくるふれあいの大屋根

平成 24 年夏、「滝沢村交流拠点複合施設等設計業務プロポーザル」にて選定された案を基に、建設推進委員会、建設推進プロジェクトチーム会議、全体ワークショップ、個別部会などでの議論を重ね、皆さんの意見を極力取り入れ、今回基本設計（案）としてとりまとめました。
平成 26 年 1 月に滝沢が市制に移行しますが、滝沢の統合のシンボルとして岩手山の稜線をイメージした「みんなでつくる大屋根」の実現に向け、今後、実施設計を進めます。



あたらしい交流のカタチを目指した「まちなみ」形成の実現

- 敷地内には周辺村民の日常動線である小道が南北東西に通ってますが、それを十字の動線として室内に取り込み、どこからでも気軽に入れる施設とします。
- 動線にそって各施設をまちなみのように配置することで、住民の交流が生まれ、深まります。
- さらに、南北の軸線上には、みんなの活動を見守るかのように秀峰「岩手山」を眺望することができます。
- 本施設には、交通量の多い県道からの直接出入りを避け、新しく整備される交差点（右折レーン付）、新設村道を経由して安全に出入りできる車両動線としています。



たきざわ広場：
村役場前の広場と一体的にとらえ、「市」の中央広場として整備します。
産業雇用創造センター、複合施設がたきざわ広場に直接面していることで、各種イベント時にはたきざわの魅力を十分に堪能できる計画とします。
また、県内でも有数の交通量を誇る県道から多くの視線を受けながら、たきざわの魅力を十分に発信することができます。
うるおい空間を演出するため、一部緑地として整備します。

滝沢総合公園との連携：
交流拠点複合施設内の飲食やイベント機能と総合公園のレクリエーション機能や花と緑を連携し、家族や仲間で 1 日遊べる居心地のよい施設群とします。

災害時も連携する「災害に強いまちづくり」：
滝沢村役場、総合公園、交流拠点複合施設の３つの施設が相互に補完しながら多重に連携します。また、警察、自衛隊や医療等の活動支援機能と共に、高齢者や障がい者などの要援護者の避難場所等、住民の安全確保の為の複合的防災拠点機能を担います。施設内には住民連携による避難訓練や適切な避難方法などを展示等により周知するほか、消防・警察等と連携した防火・防災訓練で、住民に対し幅広く防火・防災の普及啓蒙を図る拠点とします。

交流拠点複合施設エントランス：
村役場や老人福祉センターからの距離を極力近い位置に配置します。メインエントランスは**総合公園側**と村道**（仮称）第一先古川線側**双方に設け、来館者を迎える構えとしてたきざわ広場に面し大庇を設置します。

産業雇用創造センター：
「たきざわ広場」に直接間口を面した配置とし、県道からの視認性を高め、村役場との連携や複合施設との連携に優れた配置とし、たきざわのアンテナショップとしての機能を担います。また屋上にはテラスを設け、周囲の山々や自然を感じながら景観を楽しむことや、テラスからイベントを鑑賞することができます。

消防屯所：主要交差点から離れた配置とし、緊急車両の出入を容易にします。防災広場と隣接させ、災害時の活動拠点とします。

大屋根のもとに集う　　村民のよりどころ（寄り拠）となる施設

- いつでもにぎわいあふれる施設となるよう、中心となる屋内「居間」空間「ふれあい広場」を岩手山を眺むとともに東西南北の中心（施設の中心）となる場所に配置しました。
- 「ふれあい広場」はガラス張の視認性が高い空間として、中でどのような活動がされているかを判りやすくし、いろいろな興味を引き立てるように計画しました。
- 施設の様々な機能が「ふれあい広場」に顔をだし、にぎわいの連続性が感じられる構成とし、見る見られるの関係をつくります。
- 大階段の設置、ハイサイドライトからの日だまり採光、景色のよい場をつくることで居心地のよい場所をつくります。
- 屋内空間は視線は通るもののゆるやかなゾーン分けを行い、若者にとってアクティビティとにぎわいあふれる施設、お年寄りにとって静かで長時間居られる施設、子育て世代にとって安心して子供を遊ばせることができる施設を目指します。

大屋根の下で演じる　　村民がワクワクする施設

- 県道に面し、ゲート広場「たきざわ広場」を設け、「滝沢」の中心広場として村役場前の広場空間と一体的に利用します。
- 「たきざわ広場」は活動しやすい舗装空間とうるおいのある緑地で構成し、運動や飲食、休憩など様々な活動が可能な計画とします。
- 「たきざわ広場」に隣接し 80m×80m の防災広場（協議により一部削ることを確認しました）を設け、日常は駐車場利用とし、チャグチャグ馬コや防災行事などのイベント時は会場として約 9000 ㎡の大空間を提供します。防災広場に面し大屋根の軒下が囲むように配置され、日かげや雨除けを提供します。

大屋根とともに暮らす　　環境にも自然にも優しい施設

- 大屋根の下に各諸室を配置し、夏や中間期は２階ハイサイドライトによる自然の風の導入により涼しい風の通り抜けを作り出します。また冬は２階ハイサイドライトによる日射エネルギーにより、太陽光を引き入れるハイサイドルーフアトリウムとします。あたたかな空気を循環させる空調システムにより省エネにも寄与します。
- 盛土材として、国土交通省で施行している復興支援道路（新川目トンネル）の残土を利用する計画とし、敷地内の段差解消要請を受け、バリアフリーに対応する計画としました。
- 県産木のムク材をメンテナンスにも配慮し、サインやエントランス等の効果的なポイントに絞って利用します。
- 建物のボリュームは大屋根の稜線により周囲の風景になじんだ景観にします。

大屋根にまもられた安心安全の施設　　村民をまもる施設

- 避難受け入れ拠点として、水、エネルギーの 72 時間自給を最低限確保します。
- 積雪時にも利用しやすい施設として、駐車場を施設の東西の至近距離に配置、大屋根下部を利用した通路を整備します。